

あいち中央農業協同組合いちじく部会の概要

1 あいち中央農業協同組合（JAあいち中央）管内におけるいちじく栽培の経緯

JAあいち中央管内（碧海地域）でのいちじく栽培は大正末期頃から始まり、昭和30年代には、県内でいち早く共選共販体制^{*}が整備されました。

昭和45年以降、生産が過剰となった米からの転換作物として水田で栽培されるようになったことや、樹高を低くして実のなる枝を垂直に伸ばす栽培方法により、果実を大きくして収量を増加させたことで、さらに栽培面積が増加しました。

^{*}農産物をJAがとりまとめて集荷し、共同で選別し共同で販売する方式。

2 部会の概要（平成27年度）

当部会には230名のいちじく生産者が所属し、その栽培面積は42haで、県内最大の産地となっています。

西三河地域では、JAあいち中央いちじく部会を始め、JA西三河、JAあいち三河、及びJAあいち豊田のいちじくの部会により、広域出荷組織「西三河いちじく部会」が組織され、栽培技術の改善や流通・販売対策に一体となって取り組んでいます。

表1 県内におけるいちじく生産上位のJA

順位	JA	栽培面積 (ha)	出荷量 (t)	うちハウス栽培	
				栽培面積 (ha)	出荷量 (t)
1	あいち中央	43	837	5	150
2	あいち知多	32	518	2	85
3	あいち豊田	9	109	—	—

出典 愛知県調べ(平成26年産)

【栽培品種】 ^{ますい} 榊井ドーフィン、サマーレッド

【出荷時期】 ハウス栽培と露地栽培を組み合わせ、4月から11月上旬まで長期出荷

表2 ハウス栽培及び露地栽培の出荷時期

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハウス栽培				←————→								
露地栽培								←————→				

【主な出荷市場】 京浜（60%）、中京（25%）、北陸（15%）

（注）（ ）内割合は、各市場への出荷割合

（参考）

全国主産県と愛知県のいちじく栽培面積及び出荷量

順位	県名	栽培面積(ha)	出荷量(t)
1	愛知県	139 (13.1)	2,244 (18.0)
2	福岡県	133 (12.5)	1,072 (8.6)
3	和歌山県	95 (8.9)	2,079 (16.7)
全国計		1,062 (100.0)	12,466 (100.0)

出典 平成24年産特産果樹生産動態等調査(農林水産省)

（注）（ ）内数値は、全国シェア(%)。